

# ほけんだより

2026. 2. 3

大洲小学校 保健室

No. 14

性教育特別号

お家人といっしょに読もう

先日、5・6年生に性指導を行いました。授業の様子をご紹介します。

5・6年生 性指導①  
1月22日 4限

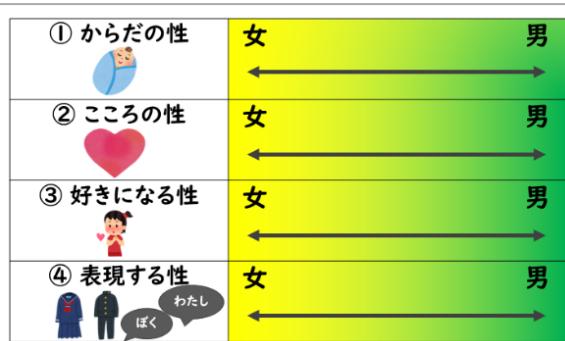
『性別は、男と女だけなのかな?』

5・6年生では、多様な性について学び、LGBTQsといった「性的少数者」の気持ちについて考えました。

性は、「からだの性」、「こころの性」、「好きになる性」、「表現する性」の4つの要素からなり、単純に“男”と“女”だけでは区別できません。それぞれがグラデーションで表され、その度合は人によって様々です。性的少数者の方が特別なのではなく、一人ひとりが多様な性の一員です。



性には、4つの要素がある。



「性的少数者」の割合は、約13人に1人(7.6%)と言われています。これは、左利きの人やAB型の人と同じ割合です。身近にいないのではなく、「言えない」だけかもしれません。

なぜ“言えない”のか、子ども達に考えてもらうと、「いじめられるかもしれないから」「からかわれるかもしれないから」「わかつてもらえないと思うから」等の意見が出ました。これが、性的少数者が恐れている周囲の反応です。性のあり方が人と異なるだけで、差別や偏見に苦しんでいる人がたくさんいます。

顔や性格が一人一人違うように、性のあり方も人それぞれ異なります。性のあり方を個性の一つとして認め、誰もが堂々と生きていける社会になることを願います。

授業の最後に、「わたしはあかねこ」という絵本を読みました。白と黒の両親や兄弟の中で育った赤いねこが、自分らしく生きてゆく物語です。最後は青いねこと出会って幸せに暮らします。自分とは異なるものや考え方を認め合い、自分らしさを大切にしてほしいと伝えました。

## 児童の感想

- LGBTQsの人に会ったら、ばかにしたりせず仲良くなりたいです。
- 私はこれから一人一人の個性を見て、この人はこう言わされたら悲しむ、あの人はこう言わされたら喜ぶなど、全員のことを考えながら生活したいです。
- 中学校に行って LGBTQsの人がいたら、優しい声掛けをしたいです。
- LGBTQsであってもなくても、色々な人がいるので、責めたり、相手を傷つけるようなことはせず、言わない!と思いました。
- もし LGBTQsの人がいても、みんなと同じように遊んだり、話したりして差別がないようにしたいです。
- 勝手に「男」や「女」等と決めつけないようにしたいです。
- いろいろな性があることをはじめて知れて良かったです。

## 性的少数者を表す言葉

**L** (レズビアン) … 女性をすきになる女性

**G** (ゲイ) … 男性をすきになる男性

**B** (バイセクシュアル) … 男性も女性もすきになる人

**T** (トランスジェンダー) … 心と体の性がちがう人

**Q** (クエスチョニング) … 心やすきになる性がわからない

2回目の授業では、性に関する悩みを自分が相談したい時や相談された時はどうするかを考えました。

性に関する悩みがある時、1人で抱えこままで相談してほしいです。家族や先生、友達に加え、専門の電話相談窓口もあります。大人に相談すれば、トイレや更衣室を配慮する等、できることが増えます。ネットで知り合った友達は本当に信頼できるか、という話もしました。

多様な性に関する覚えてほしいキーワードとして、「アウティング」と「カミングアウト」を教えました。



**アウティング** 本人が公にしていない心の性やすきになる性等について、他人が言いふらすこと

**命**に関わる

重大な人権侵害



**カミングアウト** 自分がLGBTQsであることを他者に伝えること



変って思われないかな…?  
今まで通りの関係でいられるかな…?

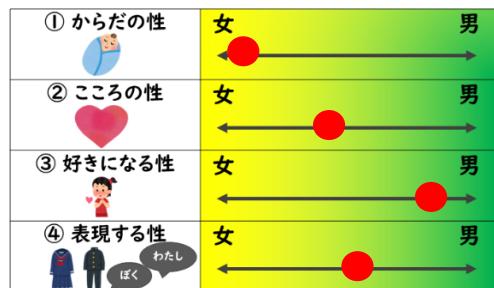
信頼できる人にしか言えない  
とても勇気がいること

アウティングをきっかけに自殺をしたり、学校や会社に行けなくなったりする人が実際にいます。カミングアウトは、本人にとってすごく勇気のいる行為です。もし誰かに相談されたら、それは信頼してくれている証拠です。「あなたはあなただから」と相手のありのままを受け止め、「今まで通り仲良くすること」。子ども達は大事なポイントに自ら気づいていました。

#### 児童の感想

- ・人それぞれ、色々な性があるのは当たり前だから、相談されても相手が嫌がるような言い方はしない。
- ・もし友達から相談されたら、相手が言われて嫌なことは絶対言わず、相手が頑張って言ってくれたことを忘れずに、優しい声掛けをしたいです。
- ・LGBTQsの人が周りにいたとしても、他の人と変わらず接したいです。
- ・男だから女だからを気にしないで、自分の思った生活をしたいです。
- ・もし相談されたら、「話してくれてありがとう」と言いたいです。

#### 小学生の頃の自分を振り返って



左の図は、小学生の頃の私(養護教諭 伊藤)の性を表現したものです。体は女として生まれましたが、小学校低学年の頃から自分の性に違和感がありました。

可愛らしいものや女子向けのアニメは好きでした。好きな男の子もいました。ですが、自分のことを「わたし」と呼ぶのがどうしても嫌で、ずっと「ぼく」と呼んでいました。小学4年生の時に親や先生に「女の子なのに『ぼく』は変だよ」と言われて、仕方なく「うち」と呼ぶようになりました。「ぼく」や「俺」と言っている男の子がうらやましいと思っていました。

七五三の時は、ピンクやオレンジのドレスを着るのが嫌で、スタジオの中を泣きながら逃げ回りました。「兄と同じ服を着たい」と言って、お店の方を困らせました。この時、泣いている母の姿を見て、子どもながらに「あ、これは言ってはいけないことなんだ」と思いました。女の子だけど、男の子のように振る舞いたい部分もある自分の曖昧な気持ちは、誰にも言わずに生きてきました。

大学で多様な性について勉強し、「性はグラデーション」と聴いた時、小さい頃の自分の気持ちは変ではなかったとはじめて思いました。同時に、自分の性について悩み苦しんでいる人がたくさんいることを知りました。

今は、ランドセルの色や制服(女子のスラックス)など、選択肢が増えてきています。しかし、性的少数者に対する世間の目は厳しく、「女なのに」「男らしく」といった言葉に傷ついている人がたくさんいます。LGBTQsの人が特別ではなく、一人一人が多様な性の一員であること、性はグラデーションであることが、もっと世の中に浸透していくべきだと思います。

この授業をする度に、日頃から「こうあるべき」という自分の固定概念がないか、何気ない一言で誰かを傷つけていないか、考えさせられます。学校は便宜上男女で分かれているものが多いことも事実です。性に関することだけでなく、子ども達には自分の気持ちを正直に言葉にできる人になってほしい。そして周りの大人は多様な考え方を認め合える環境を作っていく必要があると感じます。